

「きき合い つなぎ合い 支え合う 協同的な学び」の授業スタンダード

名護市立東江中学校

※保清の行き届いた学習環境で、ざわつきがなく、しっとりとした雰囲気ですべての生徒が授業を開始したい。

はじめ
9分
20分
40分
50分

授業の最初の10分間は黄金の時間 (コの字)

- (1) 机が離れていないか(机の横にバッグを掛けてないか)、机の上にいらぬ物を置いて精神的なバリアードをつくっていないか。
- (2) ドリルや復習に時間をかけると学びから潰れる生徒が現れる。⇒できるだけ5～7分以内でグループにしたい。(グループで何をやらせたいかが分かるような的確な課題提示)

最初の小グループ活動 『共有の学び(教科書レベル)』

- (1) できるだけ素材やモノを媒介した「問題解決的思考」の活動を組み込む。
- (2) 教師は、すぐにグループへかかわらない。まず、まかせてみる。本当にかかわらなければならぬグループや子どもをじっくり見極める。 ※「1分ルール」突っ伏した生徒には1分以内に声をかける。
- (3) 学びが停滞しているグループ、学びから外れている生徒がいるグループへの積極的な支援を行いたい(教えるのではなく、あくまでも支援に徹する。教えてしまうと、教師の教えを待つようになり、他の生徒に依存しなくなる)。生徒の目線に合わせるために、しゃがんで聴く。「いい先生は、ズボンにしゃがめる」
- (4) 「できた人は分からない人に教えてあげて」は禁句。「教え合いはお節介、学び合いはさり気ない優しさ」
- (5) 分からなくて困っている生徒が、友達に依存できるような関係をつくる。「ここどうしたらいい?」「教えて!!」学びが成立しているのは、「ボソボソ」と「ここどうなってんの?」「こうじゃない」「A君に訊いてごらん」訊くことができない生徒には、分かることと分からないことを分けてあげて、教師がかかわって、仲間とつなぐ。
- (6) グループ活動は10分を目安に、暇をつくらせないよう、どんどんテンポよく!
- (7) いくつかのグループで追求が終わっていると感じたり、騒々しくなってきたら、全てのグループが課題解決できなくても中断し、全体(コの字)にもどす。解決できたグループに発表させるのではなく、中断されたグループに自分達が解決できたところまでを発表してもらい、その後は全体で考える(全体につなぐ)。

※ 4人グループでやる最大のメリットは、(誰もが参加せざるを得ない状況への)強制力。「島」にして「孤立」させる。教室の真ん中を空けすぎない。グループをくっ付けすぎない。

全体でのすり合わせ (場合によっては省略可)

- (1) 教師のポジショニング 教室に立った時に一番端の生徒とも必ずつながり、生徒と生徒をつなぐ位置取りを考える。
- (2) 教師のトーンを落とし、教師も生徒もテンションを下げる。
- (3) 教師が一方向的にしゃべらない(教師の発言2割)。意図的な指名「発言は女子7割、男子3割がちょうどいいくらい!」いつ、誰が指名されるか分からない状況にして、指名された時に答えられるよう、聴かざるを得ない緊張感を持たせる。
- (4) 生徒に訊くときは、訊く内容を先に、名前を後に!名前を先に言うと、他の生徒が考えなくなる。
- (5) ゆっくりしたテンポで、間を大事に「待つ」姿勢を!生徒の発言にすぐに反応しない。
- (6) 生徒とのかかわりを柔らかくにして、じっくりと対話する(「つなぐ」「もどす」言葉かけを!)

2回目の小グループ活動 『ジャンプの学び(教科書以上のレベル)』

- (1) クラスの半分かくらいの生徒に「わからない」と言わせるような「背伸びとジャンプのある」高いレベルの課題を設定する。学力が低いほど、高いレベルの授業をする。
- (2) ジャンプ課題とは、一人では解決できず、仲間と交流することによってしか解決できない課題。 ※ジャンプができない時は、ヒントとかアドバイスなど、何か仕掛けを用意する。ヒントを早く出すとお節介。

全体でのすり合わせ (コの字)

- (1) 「つなぐ」言葉かけ
 - ①「Aさんの意見を聞いて、どう思う?」
 - ②「Aさんの言いたかったこと、誰か話してくれる」
 - ③「Aさんの意見と似ている人はいない?」
 - ④「AさんとBさんの考えのどこが違う(同じ)?」
 - ⑤「もう少し詳しく話してくれる?」
 - ⑥「〇〇を見てどんなことを感じた?」
- (2) 「もどす」言葉かけ
 - ①「その考え、どこからそう思ったのか、教えてくれる?」
 - ②「～って言っていたけど、どういうことかな?」
 - ③「どの言葉からそう思ったの?」(文章に戻る)
 - ④「どうして、そう思ったの?」(テキストに戻る)
 - ⑤「前にも同じようなことはなかったかな?」(既習事項に戻る)

小さい声の生徒へのケア

「あなたの言っていることは素晴らしいから、もう一度言ってくれる?」「素晴らしいことを言っているから聴いてあげて!」

聴いていない生徒へのケア

注意はやる気を削ぐので、近くの生徒から順番に指名するなどして、ごく自然にその生徒に発言の機会を持っていくと、発言のために聴かなければならなくなる。

「A君と同じです。」と答えたら

「あなたの言葉で説明してごらん!」と切り返す。

一人残らず、すべての生徒の学びを保障する

数学科授業デザイン(例)

授業者：〇〇 〇〇

- 1 〇月〇日(〇) 〇校時 〇年〇組
- 2 単元名 「等式の性質」 ※教科以外の領域等では、「題材名(教材名)」等
- 3 目標 ※「身に付けさせたい力」を踏まえた目標の設定
 - (1) 天秤の操作的活動を通して、等式の性質を指摘できる。
 - (2) 等式の性質を使うことにより、方程式の解を求めることができる。
- 4 授業の流れ ※教科以外の領域等では、以下の流れにこだわらない。
 - (1) 課題提示(コの字)
天秤を利用して、等式の性質を考える。
 - (2) 共有の学び(グループ) ※授業の内容が見えるような具体的な課題や発問等を記載する。
リンゴ1個の重さが200gのとき、図から天秤の性質を使って、メロン1個の重さやスイカ1個の重さを求める。
 - (3) 全体で共有(コの字または、グループ)
等式の性質の具体的な操作を文字に置き換えて説明する。
 - (4) ジャンプの学び(グループ) ※具体的な課題や発問等を記載する。
応用問題(2題)を立式し、等式の性質を利用して解を求める。
 - (5) 全体で共有(コの字)
 - (6) 振り返り(コの字) ※最後は必ず、個に返す(自分の考えを自分の言葉でまとめさせる)

<個人研究テーマ>「」
※研究テーマとの関連で工夫した点、参観の視点などを記述する。

今から始める『学びのデザイン』十箇条

- ①あれも、これも…にならないよう**シンプル**なデザインに！
- ②教卓と配膳台は両側に寄せて、**生徒との精神的なバリエードを取り除きたい**。また、**机をぴったりくっ付け**(バグはロッカーに整理)、**机の上には必要なものだけを置いて**、グループの真ん中を**共有できる空間**にしたい。**具体物や資料及びICT機器の活用等**により、できるだけ**モノや素材**を媒介とした**協同的な活動**ができる仕掛けを工夫したい。
- ③**余計な言葉を省いて**、的確に課題を提示し、**5～7分**でグループにしたい。
- ④教師の役割は、「**聴く・つなぐ・もどす**」+「**ケアする**」を常に意識する。
- ⑤**グループにしたら、すぐに動くのではなく、生徒の力を信じて**、まずは、**グループに任せてみる**。**5分ぐらい俯瞰的に全体を見渡して**(遠くから近くへ)、**支援が必要なグループを見極めた上で、徹底的に支援する**。教師が説明に夢中になったり、動き回ると、支援を要する**グループが見えなくなる**。支援を要しない(学び合っている)グループに関わると、グループの学びを切ることになる。また、教師ばかりを頼るようになる。
- ⑥**最も大事にしたいことは、「わかりたい(学びたい)から、教えて?」という言葉を持たせること**(「わかりにくかったら、隣と相談して…」)と「**生徒を一人にしない**」(「何か困っていることはない?」)⇒**教師や仲間が引き受ける**。
- ⑦「**1分ルール**」：**机に突っ伏す生徒やグループに入れない生徒がいたら、「いっしょにやろうよ!!」と1分以内に声をかける**。
- ⑧グループはあくまでも**個の考えを他とすり合わせ、個の考えを広げたり、深めたりする**ことが大事であり、必ずしも**グループで一つにまとめる必要は無い**。グループや全体で共有した後は、必ず**個に返す**。(自分の考え広げたり、深めたりして自分の言葉でまとめさせる)
- ⑨「**共有の学び**」(教科書レベル)は、**愚直に丁寧に!**(淡々と…)
「**ジャンプの学び**」(教科書レベル以上)は**大胆に!**(子どもの力を信じて…)
一人では解けなくても、**グループで知恵を出し合えば解けそうな課題**(1グループが解ければよい位の感覚で…)
- ⑩**一問一答式の発問ではなく、生徒の考えを広げたり、深めたりする「切り返し」の発問**を工夫したい。